

都道府県幸福度ランキングに用いられた主な指標の本県順位

全国上位		全国下位	
1位	選挙投票率（国政選挙）	47位	留学生数
	正規雇用者比率		事業所新設率
	1人暮らし高齢者率の低さ	44位	語学教室にかける金額
2位	健康診査受診率	43位	平均歩数
	常設映画館数		一般廃棄物リサイクル率
3位	食料自給率	42位	人口増加率
	持ち家比率		ホームヘルパー数
	不登校児童生徒率の低さ	40位	海外渡航者率
			大学進学率

日本総合研究所（東京）が分析した「全47都道府県幸福度ランキング2020年版」（東洋経済新報社）で、山形県は総合9位にランクインした。選挙投票率や食料自給率が高く、「雇用の安定と家族の支え合いによる幸福な社会生活が充実している」と評価された。一方、国際や企業関係の領域は弱く、課題も浮き彫りにしている。

本県は幸福度9位

全国ランク初の1桁

ランキングは2年ごとに公表されている。本県は公表を開始した2012年版の総合31位から14年の27位、16年の22位、18年の10位と飛躍的に上昇している。今回、初めて1桁台になり、東北でもトップだ。

同研究所の寺島実郎会長が監修した。今回は国の統計資料などを基に、人口増加率や1人当たりの県民所得などの基本指標5項目と、▽仕事▽教育▽健康▽文化▽生活の5分野の指標50項目、追加指

標20項目の計70項目を分析した。内容を見ると、選挙投票率（国政選挙）が1位、食料自給率が3位など基本指標は全国2位の高さで、総合順位を大きく引き上げた。生活分野でも1人暮らし高齢者率の低さが1位、持ち家比率3位、道路整備率8位など高い順位を示し、分野総合でも6位にランクされている。

仕事分野は正規雇用者比率1位、インターンシップ実施

率6位、大卒者進路未定者率の低さが7位だった一方、事業所新設率は全国最下位。文化分野は常設映画館数2位など余暇・娯楽領域は高いが、留学生数や語学教室にかける金額、海外渡航者率の低さなど国際領域が低迷し、課題を残した。ランキングでも「優秀な国際人材の獲得・育成に取り組むことにより、企業活動の活性化にもつなげたい」と指摘している。

吉村美栄子知事は9日の定例記者会見で「市町村や事業者、県民それぞれの取り組みの成果。県民が一層幸せを感じてもらえるよう頑張りたい」と述べた。

（小関裕之）

投票率や自給率
基本指標が高く
雇用、家族の支えなど充実